



# 幡多地域

～第1期産業振興計画（幡多地域アクションプラン）の総括（案）～

# 1 各分野の取り組みの総括

## 農業

○農業機械の共同利用や野菜の共同栽培等により集落機能を維持するとともに、農業経営の安定化を図る集落営農の組織化については目標40組織に対し41組織を設立。  
○幡多地域のユズの産地づくりでは、目標の642 tに対し640 tとほぼ目標を達成。なかでも三原村のユズ栽培面積はH20(8ha)→H23(28ha)に増加。  
○直七の収穫量はH19(4t)からH23(36t)に増加し、加工商品「直七の里ポン酢しょうゆ」が、スーパーマーケット・トレードショ-2012で「スーパーマーケットで買いたい食品30選」に選ばれた。  
○栗産地再生を目指し、西土佐地域の栗を使用した加工商品の開発と販売をスタート。原料の確保と販路の拡大が課題。

## 林業

○森の工場は幡多管内で22団地を認定し、作業道の開設や機械の導入により、木材生産目標量17,700m<sup>3</sup>に対し16,781m<sup>3</sup>とほぼ目標を達成。  
○「四万十の家」の建築と地域産ヒノキの販売推進では、四万十ヒノキを使用したモデルハウスを建築して平成23年4月から利用開始。利用目標(体験宿泊50組、視察者100人)に対し、体験宿泊43組、視察者929名とほぼ目標を達成。  
○大月町では山林資源を活用した製炭事業が、平成23年度からスタート。生産された土佐備長炭は問屋・利用者からの評価が高く、販路の確保が進んでいる。

## 水産業

○幡多管内の豊富な魚類の加工と販売が進んでいる。  
・宿毛市では、養殖・天然魚の1次加工施設(3施設)を整備。首都圏や東北の店舗に納品する事業者は、東日本震災の影響などで目標達成には至らなかったが、売り上げは回復しつつある。  
・土佐清水市では、ソウダカツオ等を使用した商品開発と販売促進に取り組んでいる。なかでもキャットフードは年間13億円を超す販売となっており、原魚の取扱量の増加による漁業者の所得向上とともに、雇用の創出に繋がっている。今後は、加工品の原料となる原魚の確保が課題となっている

## 商 工 業

○四万十市では、中心市街地活性化の一環として、遊休施設を使用した「いちじょこさん市場」をリニューアル後、売上げを着実に伸ばすとともに2名の雇用目標を達成。

○四万十市のLLPしまんとは、地元農産物を使用した野菜カレントウを商品開発するとともに、駅前の空き店舗を改修して幡多地域の地場産品を販売展開中。野菜カレントウは、H23.4月から首都圏のナチュラルローソンとの取引が開始。

○黒潮町特産開発推進協議会は、黒潮町の特産品である黒糖やラッキョウの加工品づくりが本格的に始まり、販路も拡大。一方、原材料であるサトウキビの増産や運営体制の強化が課題。

## 観 光

○幡多広域観光協議会が平成21年に法人化された。

- ・3年間で、体験プログラムづくり13・インストラクター研修会受講者391名・教育旅行受け入れ（66団体）7,557名で目標を達成。

○黒潮町では、Tシャツアート展、砂浜美術館、もどりカツオ祭など独自のイベントを開催し、入込客はH22、23とも目標の50万人を超えている。

## 拠 点 ビ ジ ネ ス 等

○大月町のふるさと振興公社は町内事業者と連携して多くの商品を開発し、新たに外販にも取り組んで「ひがしやま」や塩麴関連商品などのヒット商品を生んでおり、今では大月町の販売戦略の拠点施設として位置付けられている。

- ・当初計画は、H19販売実績額1億4千万円を3億円に増加する高い目標を立てていたが達成は困難。ただ、H23販売実績額は1億8千万円、H19対比128%と着実に増加している。

## 2 主要な指標及び目標に対する実績値

項目	目標	実績
修学旅行等受入人数	H23：3,000人	H23：2,406人
主要農産物の生産量等		
キュウリ（10aあたりの数量）	H23：18.0t	H23：17.3t
ナス（10aあたりの数量）	H23：16.0t	H23：14.7t
ユズ（管内の生産量）	H23：642.0t	H23：643.0t
森の工場の木材生産量	H23：17,700m <sup>3</sup>	H23：16,781m <sup>3</sup>
一次加工事業者への原魚提供	H23：81百万円	H23：5.9百万円
ビジネス拠点組織の売上額	H23：300百万円	H23：180百万円

注1：ビジネス拠点組織の売上額は、ふれあいパーク大月の売上額



### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ①

#### ○中山間地域の農業振興

##### <ユズ>

##### №1 「ユズの産地づくり」

(財)三原村農業公社(三原村)

##### 【取組の内容】

- ◆三原村農業公社を核として、ユズとブロッコリーの産地化を図り、安定的な農業所得の得られる農業環境の整備を目指す。
- ◆産振補助金(H21~H23)を活用し、「共同選果場兼事務所」「農業機械倉庫」「予冷库」「農業機械」の整備を実施。
- ◆農地10haを集積し、公社自らがユズの新植・管理をH22から始める。
- ◆村内農業者への支援(農作業受託、農業機械リースなど)



##### 【主な成果】

- ・ユズの栽培面積拡大  
H20: 8.0ha → H23: 28.0ha (20.0ha増)
- ・ユズ部会員の増加  
H20: 31名 → H23: 44名 (13名増)
- ・雇用の創出: 常勤職員6名の増
- ・大規模経営の誕生: 1名(Uターン)  
H23: ユズ2.8haを新植(公社が委託管理)

##### 【課題と今後の方向性】

本格的な収穫が始まるのはH25年以降。  
生産額を上げるためには青果出荷率の向上が必要。  
農業後継者の育成(I・Uターン者含む)が課題。



### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ②

#### ○山林資源を活用した新たな雇用の創出

##### <ウバメガシ>

#### No.13 町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業

大月町備長炭生産組合（大月町）

##### 【取組の内容】

- ◆町内に豊富に存在するウバメガシを活用して土佐備長炭の製炭事業を復興させ、新たに雇用の場を創出する。
- ◆産振補助金（H23）を活用して「土佐備長炭製炭窯」を整備。



##### 【主な成果】

- ・就業者：常勤雇用2名（生産組合）  
製炭事業者3名（H23）
- ・土佐備長炭の品質  
大月町で生産される土佐備長炭の品質は、県東部の土佐備長炭と遜色なく、東京の間屋や炭使用店舗の評価も高い。
- ・地域経済への波及効果  
山林所有者、林業従事者の所得向上につながっている。

##### 【課題と今後の方向性】

室戸市木炭振興会の協力を受け、製炭事業者を10名(10窯)まで育成（研修）。  
東京の間屋を中心に、兵庫の間屋や、四国内での直販を進め、販路の確保を図る。



### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ③

#### ○地域水産資源を活用した加工産業の振興

##### <水産加工>

##### No. 15 にぎわいづくりを中心とした地域活性化のための魚加工施設の整備

すくも湾漁業協同組合（宿毛市）

##### 【取組の内容】

- ◆県内有数の水揚げを誇る宿毛湾の水産資源を1次加工することで、魚価の下支えと地域雇用の創出により地域の活性化を図る。
- ◆産振補助金（H21）を活用し、「水産加工施設」「水産加工機器」「冷凍運搬車」の整備を実施。



##### 【主な成果】

- ・雇用の創出：常勤職員4名増
- ・販売の促進  
県内の病院・学校給食を中心に納品先を36社まで拡大、高い評価を受けている。
- ・魚価の向上  
今まで安価な魚（ヘダイ）が1次加工する事で、商品価値が向上。これに伴い、市場取引価格が上昇  
(H20：約200円/kg→H23：約400円/kg)

##### 【課題と今後の方向性】

経営安定対策として更なる作業効率の向上と、主力商品であるキビナゴバラ凍結の生産増が課題。





### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ④

#### ○地域水産資源を活用した加工産業の振興

##### <水産加工>

No 16 宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の整備  
(株) ピアサーティー (宿毛市)

##### 【取組の内容】

- ◆中国・関西圏を中心にインショップレストランを展開する事業主体が、すくも湾の豊富な魚資源に着目し、1次加工して自社レストランに提供する取り組みで、連携事業者の所得向上と雇用の創出を図る。
- ◆産振補助金（H22）を活用し、「水産加工施設」「水産加工機器」「冷凍施設」等の整備を実施。



##### 【主な成果】

- ・養殖関係者の所得向上  
加工施設の規模拡大に伴い、販売額がH22(6千3百万円)からH23(1億4千万円)に増加する事で、魚価の安定と養殖業者の所得の向上につながっている。

##### 【課題と今後の方向性】

東日本大震災の影響で平成23年度は売上額が計画を下回ったが、現在では徐々に回復している。  
加工施設の規模拡大で、新たな加工商品の製造が可能となり、新たな商品として、贈答用商品（4種類）の製造を開始。





### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑤

#### ○地域水産資源を活用した加工産業の振興

##### <水産加工>

##### No. 17 民間企業との連携による水産物の販路拡大

すくも湾漁業協同組合（宿毛市）

##### 【取組の内容】

- ◆宿毛湾に水揚げされる漁獲物の販路拡大と付加価値向上を図るため、水産加工施設を整備し、商品の製造や販売・商品企画を担う民間企業と連携して新たなビジネスを構築し、雇用の創出と漁業者所得の向上を図る。
- ◆産振補助金（H21）を活用し、「水産加工施設」「水産加工機器」「冷凍施設」等の整備を実施。



##### 〔主な成果〕

- ・雇用の創出：常勤職員9名増
- ・民間企業との連携  
首都圏で飲食店を展開する民間企業と県内企業が設立した加工会社が当該加工施設を活用し、首都圏の飲食店舗に1次加工した食材を提供。
- ・魚価の価格安定

##### 〔課題と今後の方向性〕

東日本大震災後の計画停電等の影響で、23年度上半期は厳しい状況であったが、その後は徐々に回復し、現在は経営が安定している。



### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑥

#### ○地域水産資源を活用した加工商品の製造

##### <キビナゴ>

№ 21キビナゴ加工商品の生産体制強化  
八重丸水産（大月町）

##### 【取組の内容】

- ◆地元水産資源を活用した食品（きびなごケンピ）の機械加工施設を整備し、販売体制を強化するとともに、雇用の創出と地元水産資源の利用促進を図る。
- ◆産振補助金（H23）を活用し、「加工施設改修」「攪拌機械整備」を実施。



##### 【主な成果】

- ・きびなごけんぴの売上増  
H22：53,000袋 → H23：109,100袋
- ・商品の評価  
平成23年度「地場産業奨励賞」を受賞

##### 【課題と今後の方向性】

平成23年度に実施したテストマーケティングや商品審査評価等を基に、新たな商品開発・パッケージ改良・商談会への出店など、販路の確保と販売促進を図る。



### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑦

#### ○地域特産品を活用した加工商品の販売

<直七>

№ 22 直七の搾汁・商品加工をする施設整備

直七生産組合（宿毛市）

【取組の内容】

- ◆地域特産品である直七の生産量を拡大するとともに、直七加工商品を販売して農業所得の向上を図る。
- ◆産振補助金（H22）を活用し、「搾汁施設」の整備を実施。
- ◆直七加工商品の販売専門会社「直七の里（株）」をH23.2月に設立。



【主な成果】

- ・直七の収穫量  
H19：4t → H23：36t
- ・直七の加工商品「直七の里ポン酢しょうゆ」がスーパーマーケット・トレードショー2012で、「スーパーマーケットで買いたい食品30選」に選ばれた。
- ・雇用の創出：常勤雇用1名増

【課題と今後の方向性】

直七に関する問い合わせが多く、順調に取引が行われている。  
新たに新植された樹園地からは、収穫量が徐々に増加。





### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑧

#### ○地域水産物を活用した加工産業の振興

##### <水産加工>

№25 土佐清水市地域再生計画（大岐地区等の開発計画）  
土佐食（株）（土佐清水市）

##### 【取組の内容】

- ◆より安全・安心なペット向けの商品づくりのため、新たな加工機器を導入し、既存商品の増産及び市場ニーズを反映した新商品開発に取り組む。
- ◆産振補助金（H22）を活用し、「高温高圧調理殺菌装置（2台）」「液充填式自動真空包装機（2台）」を導入



##### 【主な成果】

- ・土佐食の売上高  
H22：1,363,340千円  
→H23：1,476,071千円
- ・雇用の創出（臨時、パート含む）  
（従業員数）H22：170名→H23：191名
- ・地元の水産物を利用した商品づくり、販売を行うことで漁業者の所得の安定が図られている。

##### 【課題と今後の方向性】

- ・原材料となるメジカの確保
- ・キャットフード以外の加工食品の販路の拡大





### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑨

#### ○地域産物を活用した加工産業の振興

<加工>

№26 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業  
(株)土佐清水元気プロジェクト(土佐清水市)

【取組の内容】

- ◆農水産物を生産者から安定的に仕入れ、加工・販売の仕組みづくりを行い、高付加価値化、統一ブランドづくりを行う。
- ◆産振補助金(H21)を活用し、「農産物の流通システムの構築(集荷用トラック、集荷用コンテナ等の購入)」「水産振興環境整備(魚選別作業台、トイレ等整備)」及び「特産品の開発と統一ブランドづくり」を実施



【主な成果】

- ・土佐清水元気プロジェクトの売上高  
H22：176,623千円→H23：171,733千円
- ・地元の食材を利用した様々な商品開発・販売を行う事で、農業・水産従事者の所得確保が図られている。

【課題と今後の方向性】

- ・売れ筋商品(魚のツケ丼・海カレーなど)の販路拡大
- ・競合する商品が多い中での販路拡大を行っていくための戦略づくり



### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑩

#### ○中心市街地の活性化

##### <直販>

#### № 28 食育プラザ整備事業

まちづくり四万十（株）（四万十市）

##### 【取組の内容】

- ◆中心商店街の空き店舗を活用して、地元農産物の集荷・販売・食育を進め、中心市街地の高齢者支援（買い物難民への宅配等）と中心市街地の活性化、併せて近隣農業者の所得向上を図る。
- ◆産振補助金（H23）を活用し、「食育プラザ」の内外装の改修、「厨房機器等」を整備。「いちじょこさん市場」としてリニューアルオープン（H23.9月）
- ◆農産物の集荷の開始



##### 【主な成果】

- ・いちじょこさん市場の売上高（1日）  
H22.9月～3月平均：100,338円  
→H23.9月～3月平均：125,726円
- ・いちじょこさん市場の購入客数（1日）  
H22.9月～3月平均：198人  
→H23.9月～3月平均：232人
- ・集荷による高齢農家等の所得の向上（集荷者数：6地区63人）
- ・雇用の創出：常勤雇用2名増

##### 【課題と今後の方向性】

- ・惣菜部門の充実
- ・集荷業務の継続
- ・宅配業務の開始



### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑪

#### ○地域農産物を活用した加工・販売の推進

<栗>

№29 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト  
(株)しまんと美野里(四万十市)

#### 【取組の内容】

- ◆四万十川流域で生産される四万十栗の加工・保管施設を整備し、加工品(甘露煮、渋皮煮、ペースト)の製造・販売による農業所得の向上及び雇用の創出を図る。
- ◆産振補助金(H22)を活用し、「栗加工設備(冷凍庫、栗皮むき機、真空包装機、ボイラー等)」「氷感庫」の整備を実施
- ◆大手コンサルタントとの連携による販路開拓

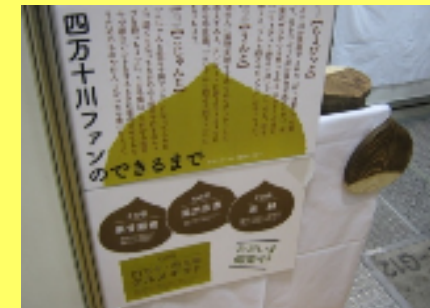


#### 【主な成果】

- ・県外の手菓子メーカーへの納品開始
- ・雇用の創出：常勤雇用2名増

#### 【課題と今後の方向性】

- ・原材料となる栗の確保
- ・氷感庫の特徴である長期保存・糖分上昇は確認されており、優位性を活かした販路開拓。





### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑫

#### ○拠点施設を活用した販売促進事業

##### <拠点ビジネス>

#### №30 拠点ビジネスの推進（大月町まるごと販売事業）

（財）大月町ふるさと振興公社（大月町）

##### 【取組の内容】

- ◆大月町ふるさと振興公社が運営する道の駅大月「ふれあいパーク大月」を拠点とし、特産品の開発・販売・集客の仕組みを構築するとともに、情報発信による大月町のファンづくりを推進し、地域活性化と販売促進を図る。
- ◆産振補助金（H21～H22）を活用し、「特産品加工施設整備」「商品開発」「販売促進」を実施。



##### 【主な成果】

- ・販売金額の増加  
H20：1億5千万円 → H23：1億8千万円
- ・新商品の開発  
食品関連、嗜好品の商品を順次開発。きびなごサーディンが「H21土佐いいものおいしいコンクール」で優秀賞を受賞。
- ・外販の拡大  
ひがしやま関連商品は東京の伊勢丹などと取り引きが始まるなど、売れ筋商品も出てきている。

##### 【課題と今後の方向性】

売れ筋商品の安定供給と商品開発・改良。町内の他事業者と「大月まるごと販売プロジェクト」を立ち上げ、連携した販売促進を行っている。





### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑬

#### ○地域農産物を活用した加工産業の振興

##### <黒糖>

##### No 33 「黒潮印」の商品開発

黒潮町、黒潮町特産品開発推進協議会（黒潮町）

##### 【取組の内容】

- ◆大方地域の特産品である黒糖づくりの体制整備や原料供給ビジネスの基盤強化を進めるとともに、特産品開発とブランド化を推進し、農産物加工施設を拠点に産業振興を図る。
- ◆産振補助金（H21～H22）を活用し、「さとうきび加工施設」の整備、「新商品の開発（ラッキョウ漬け、カリントウ、ピクルス等）」「販売促進」を実施



##### 【主な成果】

- ・黒糖生産量の増  
H21：800kg→H23：1,146kg
- ・県外大手カリントウ業者への納品が始まるなど、地域内外で原材料としての取引先が拡大
- ・ラッキョウ漬けは県内量販店への納入が始まる。（H23：860kg）
- ・商品の取引量が増えてきており、生産者の所得の安定につながっている。

##### 【課題と今後の方向性】

- ・主力商品である黒糖カリントウ、ラッキョウ漬けの生産量の拡大と販路の確保
- ・黒潮印商品のブランド認証制度を創設し、商品の高付加価値化を図っていく。



### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑭

#### ○地域水産物を活用したまちづくり

##### <カツオ>

№ 34 カツオ文化のまちづくり事業  
黒潮町、黒潮町商工会（黒潮町）

##### 【取組の内容】

- ◆佐賀地域において、漁師町ならではの味の提供、新たな商品開発、交流人口の拡大を図り、カツオ文化のまちおこしを進める。
- ◆産振補助金（H21～H22）を活用し、「カツオ関連商品の開発（カツオカツ、カツオ団子、カツオ茶漬け、カツオジャーキー）」「販促活動」「黒潮一番館の改修・機能強化」「ツアー誘致活動」等を実施
- ◆日戻りカツオの商標登録



##### 【主な成果】

- ・黒潮一番館の通年営業の開始（H23～）による利用者数の増  
H22：9,280人 → H23：9,982人
- ・カツオ関連商品の販売額  
H23：3,485千円
- ・カツオタタキのチルド商品がサークルKのカタログ販売商品となる。

##### 【課題と今後の方向性】

- ・黒潮一番館の通年営業にあわせて、引き続き食事の新メニューづくりを行い、魅力ある施設づくりに取り組む。
- ・もどりカツオ祭りでは多くの集客があり、引き続き祭りを継続していくことで、カツオ文化のまちをPRし、交流人口の拡大を図る。



### 3 地域アクションプランの主な成果と課題 ⑮

#### ○自然環境と融合した体験型キャンプ場の整備

##### <キャンプ場>

№ 39 竜ヶ浜自然体験及び環境教育型  
施設整備  
大月町（大月町）

##### 【取組の内容】

- ◆ 柏島の自然豊かな環境と融合した「自然体験型観光施設（キャンプ場）」を整備し、海を中心とした体験や滞在メニューを増やすことで交流人口を増やし、その波及効果で大月町観光に関連する産業振興を目指す。
- ◆ 産振補助金（H23）を活用し、「竜ヶ浜キャンプ場」の整備を実施。



##### 【主な成果】

- ・ 新しい観光スポットの整備  
柏島の近くに新たな体験型観光拠点が整備され、観光客の増加に伴う地域活性化が期待できる。
- ・ 雇用の創出  
常勤職員1名と繁忙期の臨時職員（臨時職員1名、清掃臨時1名）を計画している。

##### 【課題と今後の方向性】

施設の運営管理は、「大月町観光協会」が行い、4月28日から営業を開始。



### 3 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用実績等

#### 【活用実績】

平成21年度	7件	83,430千円	(農業1件、水産業2件、商工業3件、 拠点ビジネス1件)
平成22年度	15件	354,840千円	(農業2件、水産業3件、商工業7件、観光2件、 拠点ビジネス1件)
平成23年度	11件	108,678千円	(農業3件、林業1件、水産業4件、商工業1件、 観光2件)
計	33件	546,948千円	(農業6件、林業1件、水産業9件、商工業11件、 観光4件、拠点ビジネス等2件)

#### 【雇用の創出（H21～H23年度）】

	H23年度実績 (H21・22の雇用の継続分を含む)	うち産業振興推進 総合支援事業費補 助金関連
地域アクションプランに伴う雇用の増加	195人	120人

地域アクションプランにおけるふるさと雇用事業の活用人数 60人